

主 題：キリスト者に与えられたもの
聖書箇所：ローマ人への手紙 15章14－21節

正しい動機、それを神はご覧になり喜ばれます。私たちはいつも神に喜ばれる思いをもって過ごしているでしょうか？ 今日の聖書箇所、ローマ 15:14 にはパウロの確信が書かれています。キリスト者は、正しい動機をもって、成すべきことをしっかり成すことができ、互いに教えあい、励ましあうことができるのだと。当時、ローマの教会は迫害の中にありました。キリスト教がローマ帝国の国教となるまでには、まだ 200 余年あったのです。この迫害下でさまざまな不安の中にあっても、クリスチャンはすべての神の知恵に満たされ、正しく生きることができるという確信があるのだとパウロは言います。私たちもこの異教の国、日本にあって、日々信仰生活を守る中で、いろいろな苦労がありますが、この確信はこの私たちに、そして、すべてのクリスチャンに神が与えてくださるのです。

パウロはこのローマ教会への手紙によって、ローマのクリスチャンたちが困難、迫害の中にあっても大胆に、正しく生きることができると、励ますのです。

☆ 神がすべてのキリスト者に与えられたもの

1. 神はキリスト者に目的を与えられました 16 節

○パウロがここで話している恵みとは、

「異邦人のためにキリスト・イエスの仕え人となるために」とあるとおり、神から与えられた務めを指しています。パウロにはそれは異邦人伝道でした。

○すべてのキリスト者に与えられた究極の目的とは、

「祭司であること」です。「神の福音をもって、祭司の務めを果たしています。」と、置かれたところ、働きは違っても、キリスト者は祭司として神に遣わされているのです。1 ペテロ 2:5「あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい。」、続く 2:9「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。」祭司としての役目は神に仕えることです。祭司は神にささげものを捧げます。この「ささげもの」は神に喜ばれる霊のいけにえです。「霊のいけにえ」とは、祈りであり、さんびであり、また奉仕などです。異邦人に福音を宣べ伝えること、それがパウロの祭司としての務めであると言っています。これは、私たちにも同じことです。置かれたところでどのように福音を伝えて行くのか、その務めが祭司であると教えられます。

2. 神はキリスト者に誇りを与えられました 17 節

かつては自分自身を誇りとする私たちでした。

○パウロがもっていた誇りとは、

神に仕えることについての誇りです。この地上における成功ではありません。パウロは神に生かされている意味をよくわきまえていました。神から与えられたものに誇りをもっているのだと。

○誇りをもっている人の歩みとは、どのようなものでしょう？

- ・ 自分のしていることに喜びをもっています。
- ・ 自分のしていることに感謝をもっています。
- ・ 妥協しません。

神は、罪人の救いのために私を用いてくださるのです。

3. 神はキリスト者に力を与えられました。 18-19 節

パウロは神に用いられて大きな働きを成しました。

○キリストのことばと行ないによって、

これはパウロの働きです。私たちには聖書があります。福音書にはイエス・キリストのことばとそのわざが書かれています。

○しるしと不思議をなす力によって、

イエスがなされた奇蹟、しるし、そのことばが本当のものである、真実であることの証拠として、と

ということです。私たちは聖書によって神の真実を知るのです。

○聖霊の力

16 節、「聖霊によって聖なるものとされた、」とあります。私たちは神から必要な力、具体的な道具を与えられているのです。

⇒このように教えられて、では、私たちはどのように生きていくかが問われています。神から与えられた目的を自分の願いとしてもって生きているのでしょうか？

神はすべてのものを与えてくださっているのですから、私たちは喜び、感謝して歩んでいくことです。

ローマ教会の人々は激しい迫害に会います。特に皇帝ネロによるクリスチャンへの暴虐は後世にも語り伝えられています。このために多くのクリスチャンが殉教してゆきました。しかし、クリスチャンの大胆な生き方、証は、後にキリスト教がローマ帝国の国教となることの起爆剤として、神は用いられるたのです。